
2019（令和元）年度

修学旅行の実施状況並びに
「学びの集大成を図る修学旅行」の取組
についてのアンケート

< 関修委研究委員会報告 >

関東地区公立中学校修学旅行委員会 研究委員会
(事務局 : 公益財団法人 全国修学旅行研究協会)

2019（令和元）年度

修学旅行の実施状況並びに「学びの集大成を図る修学旅行」の取組について 調査集計結果の分析と考察 ～感性をはぐくむ修学旅行～

I 調査研究のねらい

いよいよ中学校では2021（令和3）年度から新学習指導要領が全面実施となる。改訂のポイントである、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という、学校教育の方向性である三つの視点をどのように具現化していくか、各学校ではこれまでの実践を基に、様々な取組や工夫が続いているところである。

修学旅行については、「特別活動」において文言が若干加筆された以外は大きな変化はなかった。しかし、「どのように学ぶか」に係わり、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の視点から、学習過程の改善が求められていることを考えると、その教育的価値と重要性、可能性は、今後、益々高まっていくと考えられる。言うまでもなく修学旅行は所謂、「主体的・対話的で深い学び」そのものであると言っても過言ではない。その教育性の質的な改善を行っていくことは、生徒たちに、現代的な課題に対応する資質や能力等を育成する上でも、重要な行事、教育活動であることは言うまでもない。

本委員会は昭和38年に発足し、学習指導要領の趣旨を具現化するため、関東5県（茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉）校長会と連携し、修学旅行の「安全性の確保」「教育性の充実」「経済性の適正化」を基本的な柱として、修学旅行の在り方、条件整備等について研究を進めてきた。

また、平成30年度までに、関東5県で7,643,344人の修学旅行生を運ぶ、連合体輸送を行ってきた。そして、修学旅行の更なる充実・発展を図るため、調査研究活動に毎年、取り組んでいる。研究テーマは、その時代の教育課題であったり、社会の教育的要請であったり、様々である。体験学習や事前・事後学習、危機管理と安全対策、感染症や食物アレルギー対策、航空機利用や新線ルートの活用など、これまで多くのテーマについて、各学校における取組や課題、将来的な展望等について、実態調査を行ってきた。

今年度は、ここ数年継続調査を行っている、実施方面の検討・変更について、決定の際のきっかけや予定等についてアンケートを行った。また、近年発生している、これまでの経験や想定を超える災害や事故等と、その事前事後対応の重要性に鑑みて、「修学旅行中の安全対策」について

- ①修学旅行中の保険加入状況について
- ②加入している保険の内容について
- ③実際に補償対象となった事柄について
- ④補償対象にならなかった中で対象にして欲しかった事柄について
- ⑤班行動等の際の情報端末の活用（機能）について

上記の5つの点について調査研究を進めてきた。

修学旅行の「安全性の確保」「教育性の充実」「経済性の適正化」はいずれも重要な必要条件である。その中で、「安全性の確保」は謂わば、絶対条件である。各学校が修学旅行本来の目的を遺憾なく達成出来るためにも、その環境整備も含めて、修学旅行の重要性と可能性を常に広く展望しながら調査研究を進めていきたい。

II 2019(令和元)年度修学旅行の実施状況並びに 「学びの集大成を図る修学旅行」の取組についてのアンケート調査

<調査について>

- ・ 調査対象 関東5県(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉)の公立中学校
- ・ 調査の時期 2019(令和元)年7月
- ・ 調査内容
 1. 2019(令和元)年度実施(調査以降の予定を含む)の修学旅行の概況
時期・日数・旅行方面・宿泊地・旅行費用・不参加生徒数
 2. 実施方面の検討・変更について
 3. 「修学旅行中の安全対策」について
 4. 本年度の修学旅行について(自由記述)

・回答状況

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
調査校数	218	153	163	412	375	1,321
回答数	218	153	163	412	375	1,321
回答率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
集計対象校	218	153	163	412	374	1,320

※特別支援学校を除く

過去回答率

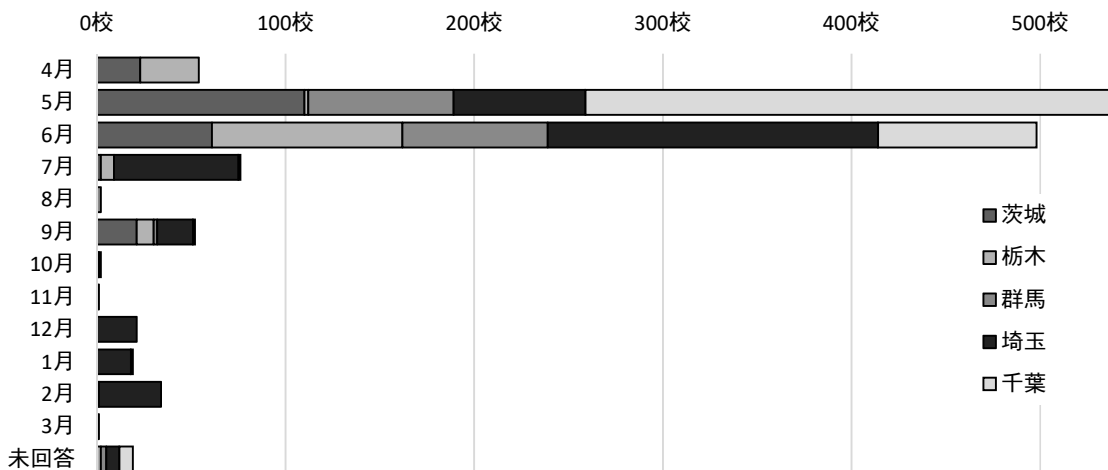
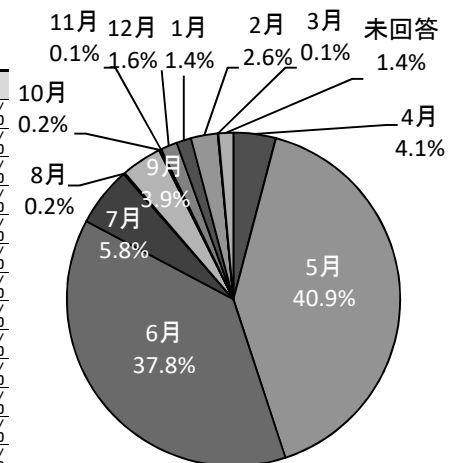
26年	27年	28年	29年	30年
1,362	1,345	1,339	1,324	1,325
1,222	1,266	1,333	1,324	1,325
89.7%	94.1%	99.6%	100.0%	100.0%

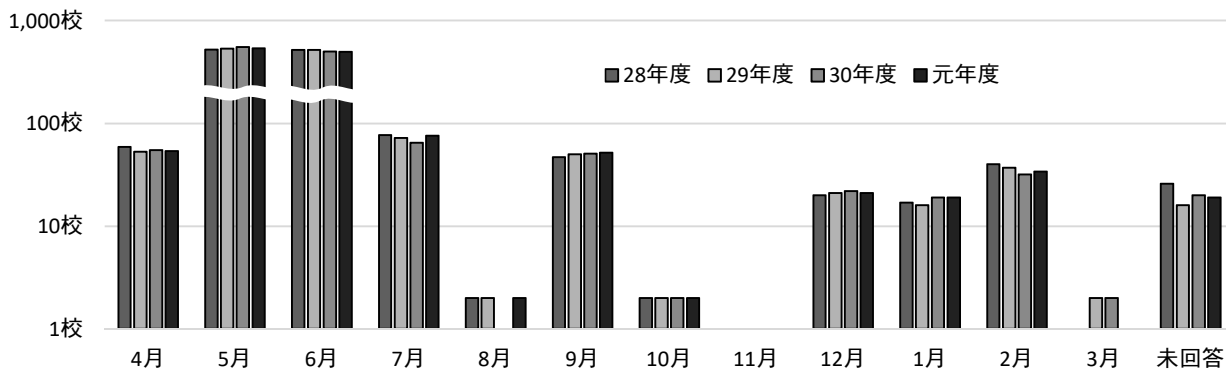
1 2019(令和元)年度修学旅行実施の状況

(1) 実施時期

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
4月	23	31				54	4.1%
5月	110	2	77	70	279	538	40.9%
6月	61	101	77	175	84	498	37.8%
7月	2	7		66	1	76	5.8%
8月			2			2	0.2%
9月	21	9	2	19	1	52	3.9%
10月			1		1	2	0.2%
11月				1		1	0.1%
12月				21		21	1.6%
1月				18	1	19	1.4%
2月	1			33		34	2.6%
3月				1		1	0.1%
未回答		2	3	7	7	19	1.4%

※本年度実施なし3校除く





実施時期、日数等の状況

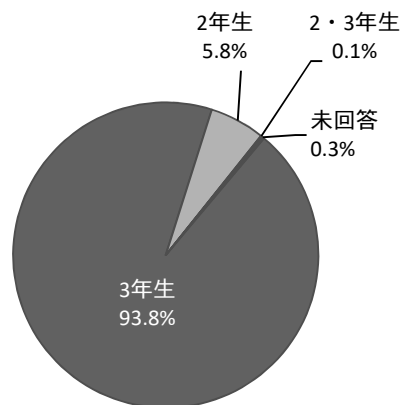
- ・実施時期は、集約列車の運行もあり、5～7月と9月の4ヶ月間で88.4%の学校が実施している。
- ・関係委の集約列車を利用しないで、それ以外の8ヶ月間に実施している学校が134校ある。
- ・9月実施校は年々増加傾向にあるが、その傾向は今年も続いている。
 (24年) (25年) (26年) (27年) (28年) (29年) (30年) (元年)
 31校 ⇒ 31校 ⇒ 36校 ⇒ 41校 ⇒ 47校 ⇒ 50校 ⇒ 51校 ⇒ 52校
- ・1月～3月の冬季に実施している学校は、今年若干減少傾向にあるが、ほぼ横ばいである。
 (24年) (25年) (26年) (27年) (28年) (29年) (30年) (元年)
 62校 ⇒ 58校 ⇒ 59校 ⇒ 58校 ⇒ 58校 ⇒ 55校 ⇒ 53校 ⇒ 54校

(2) 実施学年

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
3年生	216	152	161	334	372	1,235	93.8%
2年生	1			75	1	77	5.8%
2・3年生			1			1	0.1%
未回答	1			2	1	4	0.3%

※本年度実施なし3校除く

1,317



(3) 実施日数

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
3日間	218	152	160	411	373	1,314	99.8%
4日間					1	1	0.1%
5日間以上			2			2	0.2%
未回答						0	0.0%

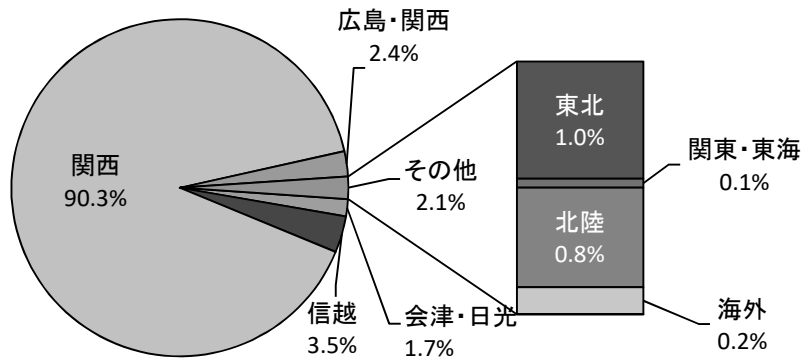
※本年度実施なし3校除く

- ・3日間で実施している学校が圧倒的に多く、99.8%となっている。
- ・群馬県の5日間以上は夏季休業中の海外派遣事業(修学旅行として実施している学校)である。

(4) 実施方面

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
東北					13	13	1.0%
会津・日光					22	22	1.7%
関東・東海					1	1	0.1%
信越					46	46	3.5%
北陸				1	10	11	0.8%
関西	206	148	154	406	275	1,189	90.3%
広島・関西	12	4	6	4	6	32	2.4%
海外			2		1	3	0.2%
未回答						0	0.0%

※本年度実施なし3校除く



実施方面

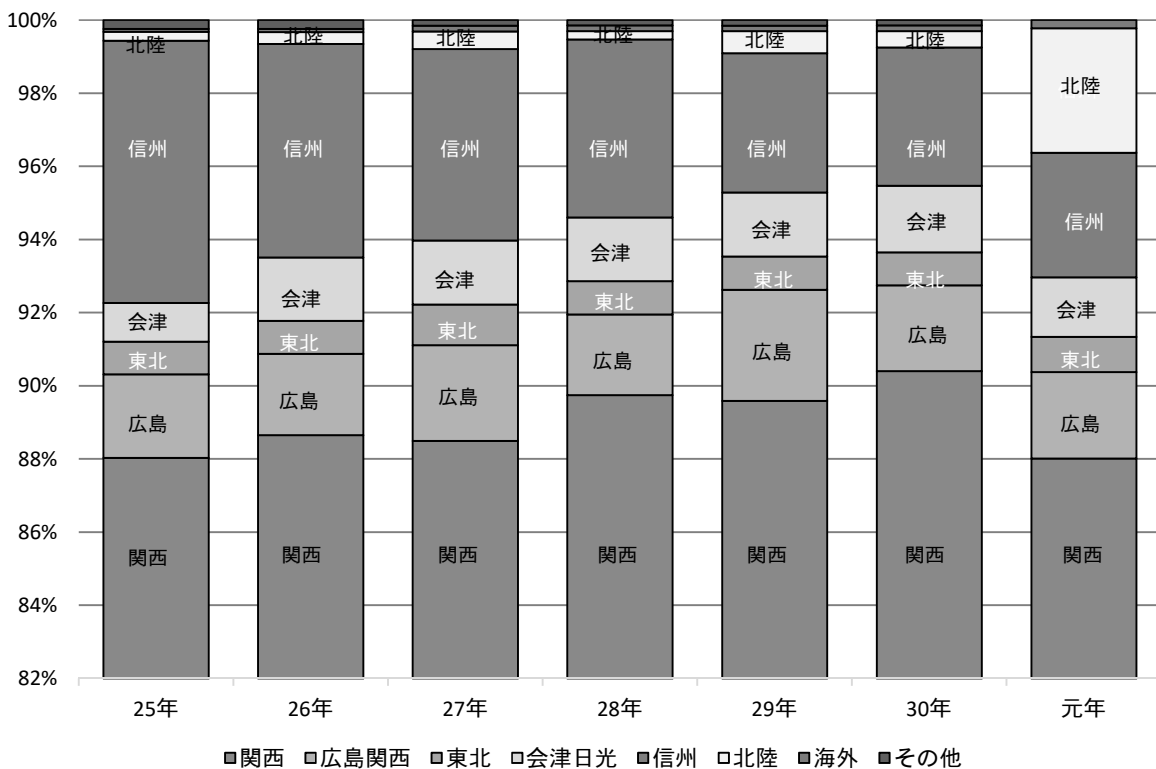
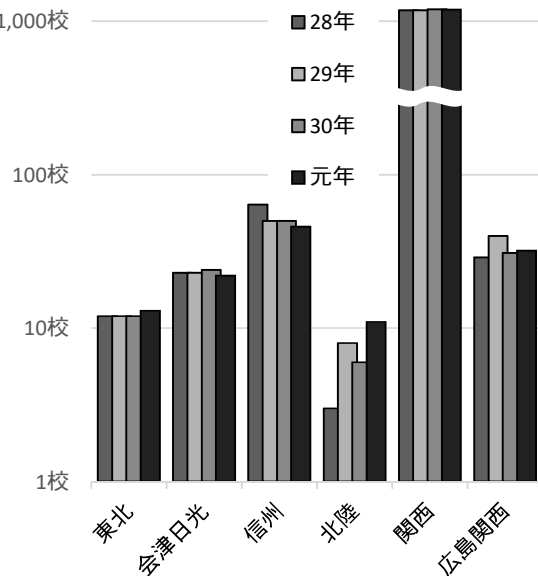
・関西方面については、国内外からの旅行者の増加に伴う混雑もあり、昨年に比べて9校減少している。しかし、全体の割合として、90%を超えており、高い人気を維持している。

・東日本大震災後、激減した東北方面は年々増加してきたが、ここ数年は現状維持の状態が続いている。震災前の状況には戻っていない。

・北陸新幹線が集約列車に設定されたこともあり、北陸方面への校数は増えている。信州方面は減少傾向である。

・東北、会津・日光、信州方面

	22年	23年	24年	28年	30年	元年
東北)	21校	6校	9校	12校	12校	13校
会津・日光)	43校	2校	4校	23校	24校	22校
信州)	60校	107校	97校	64校	50校	46校



(5)-1 宿泊地(県) 一泊目

元年	30年						校					
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計		茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉
青森県					4	4					4	4
岩手県					2	2					3	3
宮城県					3	3					3	3
秋田県					1	1					0	0
山形県					1	1					1	1
福島県					24	24					23	23
群馬県					1	1					1	1
神奈川県					0	0					1	1
新潟県					3	3					3	3
石川県				1	10	11					4	4
長野県					40	40					47	47
岐阜県					2	2					4	4
滋賀県	5	2	3	5	23	38	5	3	3	5	13	29
京都府	183	137	150	387	237	1,094	201	134	149	380	249	1,113
大阪府		2			7	9		5	1	1	8	15
奈良県	25	10	4	14	13	66	9	10	5	24	11	59
兵庫県						0					1	1
広島県	5	1	3	3	2	14	4		3	2	2	11
海外			2		1	3			2			2
未回答				1		1		1				1
合計(延校数)	218	152	162	411	374	1,317	219	153	163	412	378	1,325

※本年度実施なし3校除く

(5)-2 宿泊地(県) 二泊目

元年	30年						校					
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計		茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉
青森県					4	4					4	4
岩手県					5	5					4	4
宮城県					1	1					2	2
山形県					1	1					1	1
福島県					24	24					23	23
群馬県					1	1					1	1
神奈川県					0	0					1	1
新潟県					2	2					3	3
石川県				1	10	11					4	4
福井県					1	1					0	0
長野県					42	42					50	50
岐阜県					1	1					0	0
滋賀県	4	3	4	4	26	41	4	3	5	5	14	31
京都府	202	147	156	400	246	1,151	212	146	156	396	259	1,169
大阪府					5	5					6	6
奈良県	9	2		5	3	19	3	2		11	3	19
兵庫県					0	0					1	1
広島県					1	1					1	0
海外			2		1	3			2			2
未回答	3			1		4		2			1	3
合計(延校数)	218	152	162	411	374	1,317	219	153	163	412	378	1,324

※本年度実施なし3校除く

宿泊地

・関西方面の宿泊地についても、実施方面同様、京都の宿泊が一泊目は19校、二泊目は18校と減少している。一方で、昨年に続き、滋賀県、奈良県は7校から10校増加している。

・北陸方面は今年度から北陸新幹線の計画輸送も始まり、それを反映する形で増加している。

・東北方面では県によって微増、微減、現状維持に分かれるが、大きな変化にはなっていない。

(5)-3 連泊状況

校

一泊目 \ 二泊目	青森県	岩手県	宮城	山形県	福島県	群馬県	新潟県	石川県	長野県	岐阜県	小計
青森県	4										4
岩手県		2									2
宮城県		2	1								3
秋田県		1									1
山形県				1							1
福島県					24						24
群馬県						1					1
新潟県							2		1		3
石川県								11			11
長野県									40		40
岐阜県									1	1	2
合計	4	5	1	1	24	1	2	11	42	1	

校

一泊目 \ 二泊目	福井県	滋賀県	京都府	大阪府	奈良県	広島県	海外	小計
滋賀県		35			3			38
京都府	1	1	1,073	1	15			1,091
大阪府			5	4				9
奈良県		5	61					66
広島県			12		1	1		14
海外							3	3
合計	1	41	1,151	5	19	1	3	

(5)-4 宿泊県別生徒数

一泊目

二泊目

人

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
青森県					682	682					682	682
岩手県					383	383					787	787
宮城県					234	234					31	31
秋田県					201	201					0	0
山形県					319	319					319	319
福島県					2,638	2,638					2,638	2,638
群馬県					47	47					47	47
新潟県					357	357					244	244
石川県				74	1,909	1,983				74	1,909	1,983
福井県					0	0					107	107
長野県					5,889	5,889					6,210	6,210
岐阜県					384	384					176	176
滋賀県	754	266	373	713	2,524	4,630	624	398	465	503	2,774	4,764
京都府	20,604	14,838	16,114	52,508	30,592	134,656	22,644	16,072	16,413	54,161	31,491	140,781
大阪府		270			471	741					404	404
奈良県	2,538	1,007	198	1,893	1,376	7,012	898	110		810	312	2,130
広島県	688	199	193	360	190	1,630					65	65
合計(延人数)	24,584	16,580	16,878	55,548	48,196	161,786	24,166	16,580	16,878	55,548	48,196	161,368

※本年度実施なし、海外の6校除く

(5)-5 宿の種類

校

1泊目	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
旅館	132	89	78	300	173	772	58.8%
ホテル	80	60	82	102	166	490	37.3%
民宿・ペンション	1	2		2	17	22	1.7%
民泊					8	8	0.6%
公共施設	2				1	3	0.2%
その他		1		1	6	8	0.6%
未回答	3			6	2	11	0.8%
2泊目	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
旅館	138	87	79	303	168	775	59.0%
ホテル	78	62	81	100	142	463	35.2%
民宿・ペンション		2		1	27	30	0.2%
民泊					30	30	2.3%
公共施設	1					1	0.1%
その他		1		1	4	6	0.5%
未回答	1			6	2	9	0.7%

※本年度実施なし、海外の6校除く

(6) 県別旅行費用(生徒一人当たり平均額)

	校					合計	割合
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉		
30,000～					1	1	0.1%
35,000～			1	2	10	13	1.0%
40,000～				4	25	29	2.2%
45,000～				29	18	47	3.6%
50,000～		1	3	75	50	129	9.8%
55,000～	6	5	10	111	105	237	18.0%
60,000～	9	14	49	132	84	288	21.9%
65,000～	55	27	55	44	54	235	17.9%
70,000～	92	45	31	9	21	198	15.1%
75,000～	41	36	8	2	3	90	6.8%
80,000～	12	19	2			33	2.5%
85,000～	3	5	1			9	0.7%
未回答				3	2	5	0.4%
合計	218	152	160	411	373	1,314	100.0%

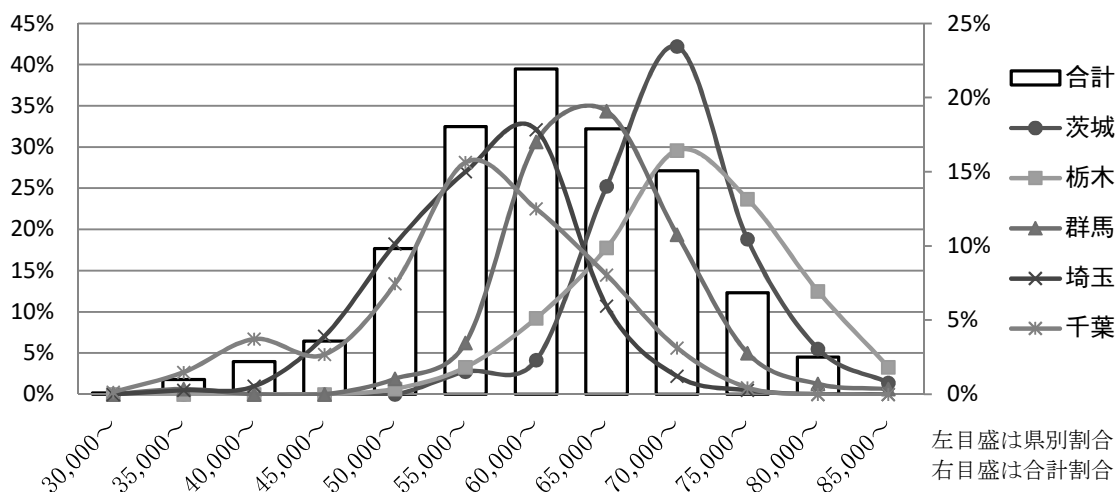
※本年度実施なし、海外の6校除く

県別旅行費用

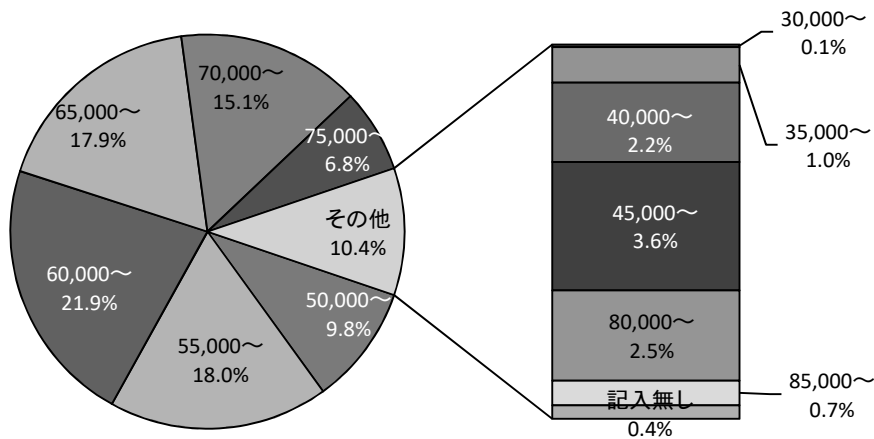
・1人当たりの平均費用は55,000～75,000円未満に多く分布するが、各県によって、或いは学校の立地条件等により東京駅に出るまでの費用にかなりの差があり、その分布状況は大きく異なる。

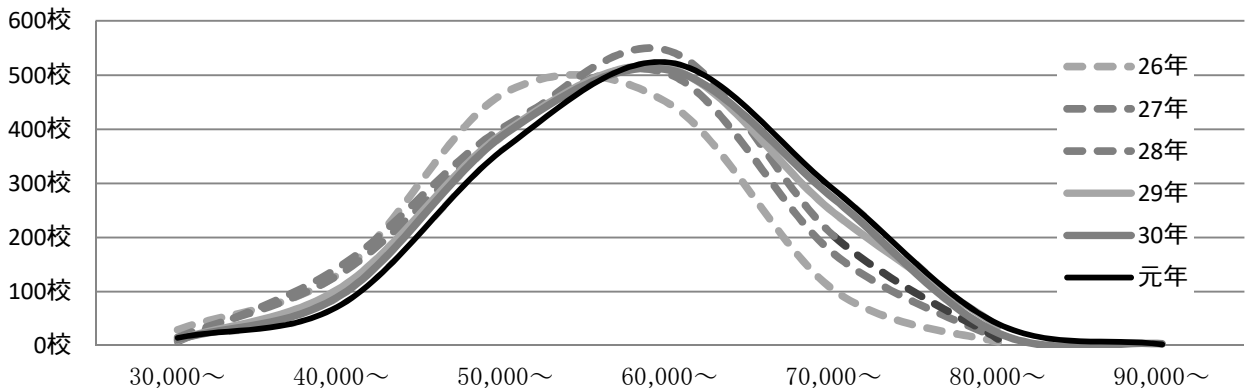
・県別に見ると、茨城県と栃木県は65,000～80,000円未満に最大分布があるが、群馬県は60,000円～75,000円未満、埼玉県は50,000～65,000円未満と千葉県は55,000～70,000円未満に分布している。

・千葉県は方面が多岐にわたるため、費用も広く分布している。



左目盛は県別割合
右目盛は合計割合

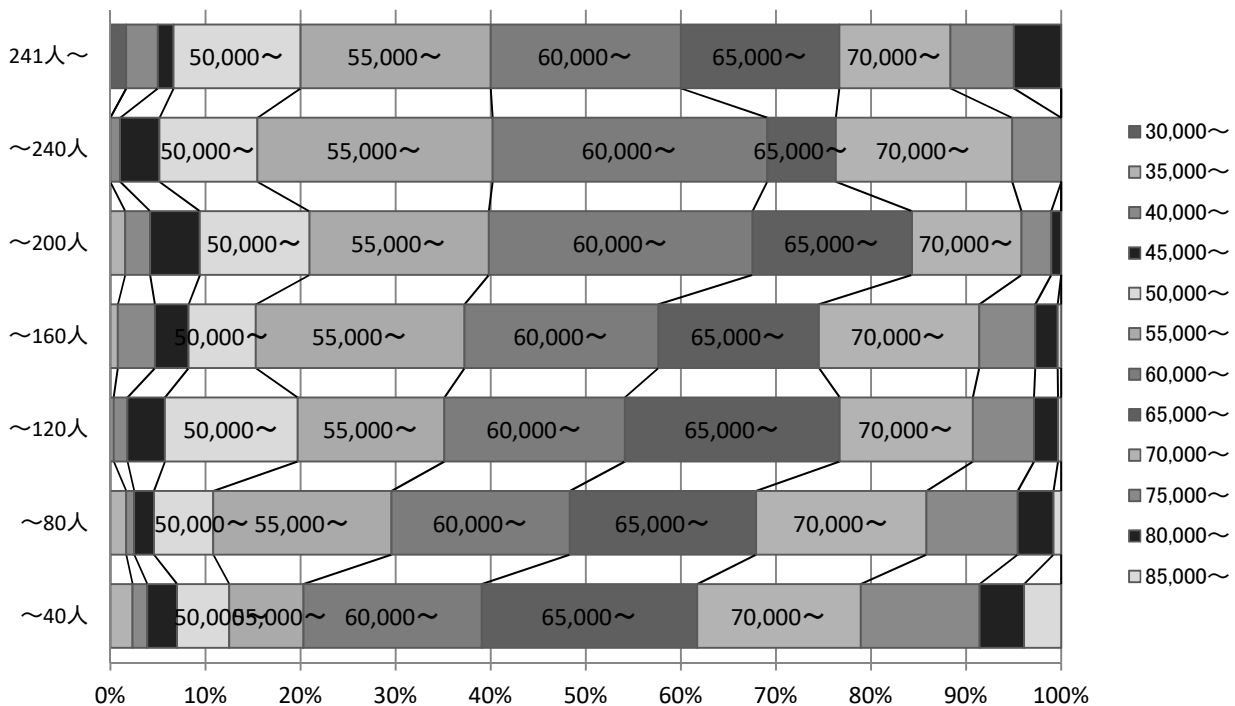




(7) 生徒数別旅行費用(生徒一人当たり平均額)

	~40人	~80人	~120人	~160人	~200人	~240人	~280人	~320人	321人~	未回答	校
30,000~									1		
35,000~	3	4	1	2	3						
40,000~	2	2	4	10	5	1	2	2		1	
45,000~	4	5	11	9	10	4	1	2		1	
50,000~	7	15	39	18	22	10	8	3		7	
55,000~	10	45	43	56	36	24	12	3	4	4	
60,000~	24	45	53	52	53	28	12	9	2	10	
65,000~	29	47	63	43	32	7	10	3		1	
70,000~	22	43	39	43	22	18	7	1	1	2	
75,000~	16	23	18	15	6	5	4		1	2	
80,000~	6	9	7	6	2		3				
85,000~	5	2	1	1							
未回答	1		2	1	1						
合計	129	240	281	256	192	97	60	23	8	28	1,314

※本年度実施なし、海外の6校除く



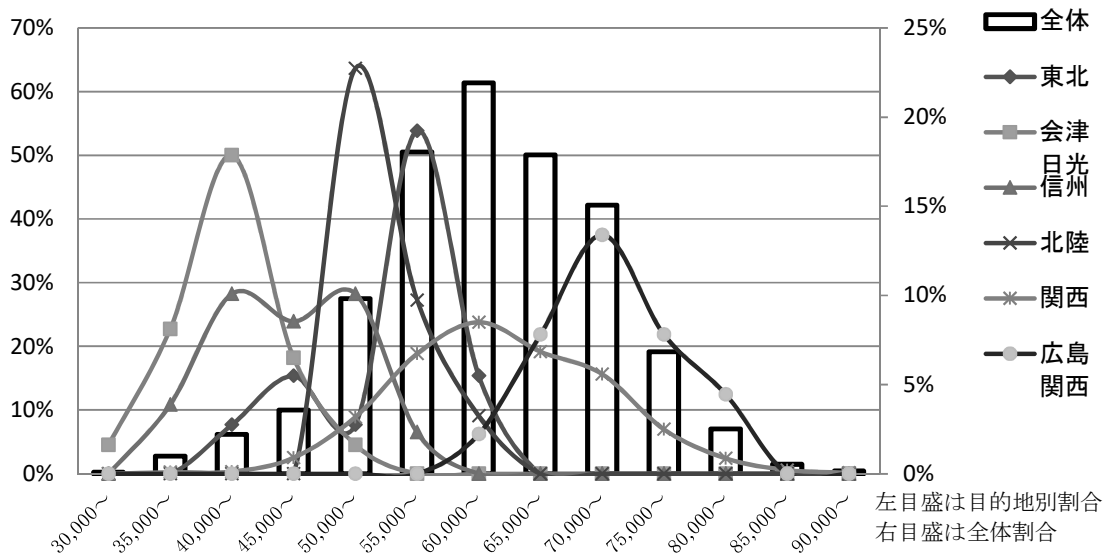
生徒数別旅行費用

・宿泊料や見学科などのように一人あたりの経費とは別に、バス代など参加者全員で負担するものについては、小規模校における一人の負担金額はどうしても重くなり、旅行費用全体も高額傾向となる。

(8) 方面別旅行費用(生徒一人当たり平均額) 校

	東北	会津 日光	関東	信越	北陸	関西	広島 関西	合計
30,000～		1						1
35,000～		5		5		3		13
40,000～	1	11		13		4		29
45,000～	2	4		11		30		47
50,000～	1	1	1	13	7	106		129
55,000～	7			3	3	224		237
60,000～	2				1	283	2	288
65,000～						228	7	235
70,000～						186	12	198
75,000～						83	7	90
80,000～						29	4	33
85,000～						7		7
90,000～						2		2
未回答				1		4		5
合計	13	22	1	46	11	1,189	32	1,314

※本年度実施なし、海外の6校除く



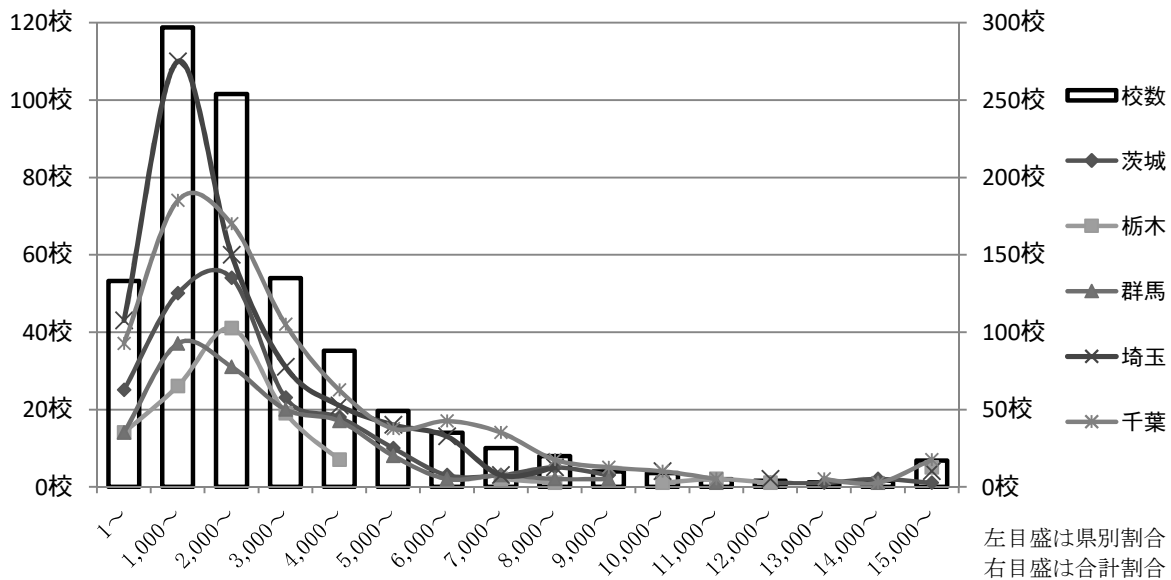
(9) 県別体験活動費用(生徒一人当たり平均額) 校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
1～	25	14	14	43	37	133	10.1%
1,000～	50	26	37	110	74	297	22.6%
2,000～	54	41	31	60	68	254	19.3%
3,000～	23	19	20	31	42	135	10.3%
4,000～	18	7	17	21	25	88	6.7%
5,000～	10		8	16	15	49	3.7%
6,000～	3		2	13	17	35	2.7%
7,000～	3	2	3	3	14	25	1.9%
8,000～	5	1	2	5	7	20	1.5%
9,000～	3		2		5	10	0.8%
10,000～		1		4	4	9	0.7%
11,000～		2	1		2	5	0.4%
12,000～	1	1		2		4	0.3%
13,000～	1				2	3	0.2%
14,000～	2		1		1	4	0.3%
15,000～	1	5		4	7	17	1.3%
0または未回答	19	33	22	99	53	226	17.2%
合計	218	152	160	411	373	1,314	100.0%

※本年度実施なし、海外の6校除く

体験活動費用

・生徒一人当たりの体験活動費用は4,000円未満の学校が、全体の62.3%を占める。各学校のねらいや目的等により、広範囲に分布しているといった方が正確である。

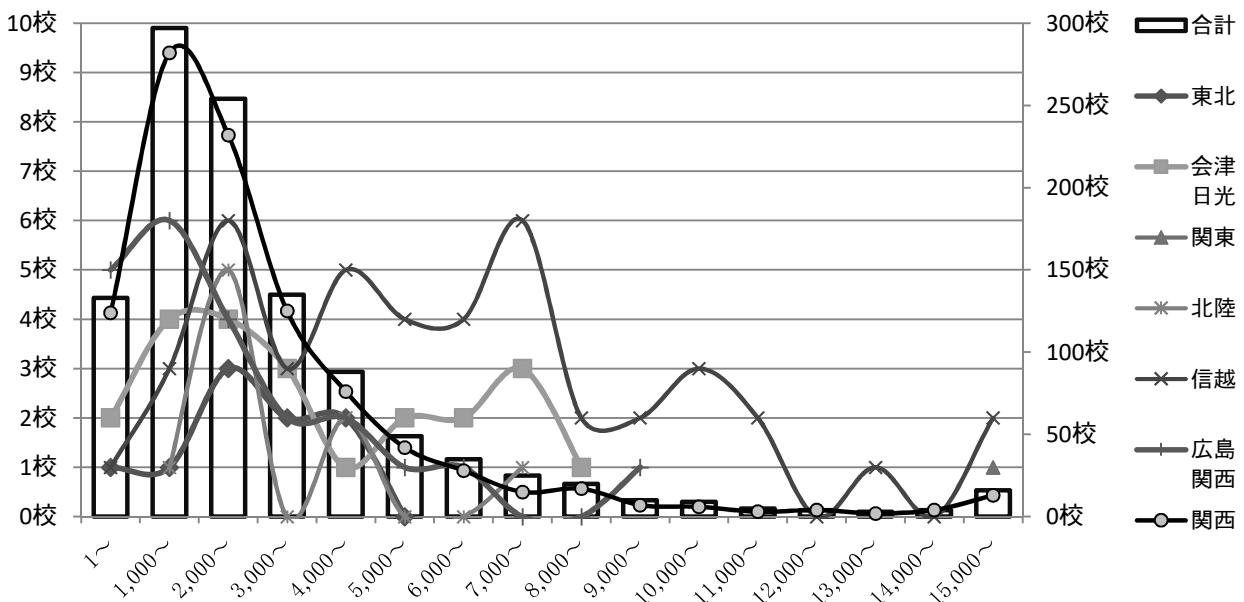


(10) 方面別体験活動費用(生徒一人当たり平均額)

校

	東北	会津日光	関東	信越	北陸	関西	広島 関西	その他	未回答	合計
1～	1	2		1		124	5			133
1,000～	1	4		3	1	282	6			297
2,000～	3	4		6	5	232	4			254
3,000～	2	3		3		125	2			135
4,000～	2	1		5	2	76	2			88
5,000～		2		4		42	1			49
6,000～		2		4		28	1			35
7,000～		3		6	1	15				25
8,000～		1		2		17				20
9,000～				2		7	1			10
10,000～				3		6				9
11,000～				2		3				5
12,000～						4				4
13,000～				1		2				3
14,000～						4				4
15,000～			1	2		13				16
0または未回答	4			2	2	209	10			227
合計	13	22	1	46	11	1,189	32	0	0	1,314

※本年度実施なし、海外の6校除く



左目盛上記以外
右目盛は合計と関西

(11) 方面別旅行費用平均(生徒一人当たり平均額)

円

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	平均	最高額	最低額
東北					54,130	54,130	62,220	42,000
会津・日光					41,930	41,930	53,500	33,458
信越					46,830	46,830	58,616	36,027
北陸				53,560	54,440	54,360	60,000	51,229
関西	71,945	72,516	66,256	58,312	61,117	64,137	144,482	37,299
広島・関西	75,168	74,208	72,050	64,581	72,557	72,653	82,000	61,458
海外(ホームステイ含)			340,000		103,618	261,206	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-
平均	72,122	72,560	66,473	58,362	57,961	63,180	-	-
最高額	144,482	87,938	86,485	78,970	77,989	-	144,482	-
最低額	55,160	54,919	39,024	37,299	33,458	-	-	33,458

※平均/最高金額は
本年度実施なし、海外の6校除く
※小数点以下四捨五入

方面別費用平均(※海外除く)

・関西方面の費用は、東京駅までの距離に関係して、茨城県、栃木県、群馬県の3県が比較的に高額であるのに対して、千葉県、埼玉県は3県よりは、やや低い金額となっている。広島・関西方面も同様の結果となっている。

・千葉県は東北、会津・日光、信州、北陸と行き先が多方面に分布し、金額もまちまちである。

・関西方面の平均費用は64,137円となり、昨年の63,279円より858円の増となった。一方、広島・関西方面は平均費用が72,653円となり、昨年の73,274円より621円減っている。

・今年度の旅行費用平均は、昨年の62,653円より527円増の63,180円となった。一昨年、初めて6万円を超えたが、その傾向は続いている。

(12) 方面別体験活動費用平均(生徒一人当たり平均額) 円

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	平均	最高額
東北					2,192	2,192	4,320
会津・日光					3,913	3,913	8,660
信越					6,392	6,392	19,079
北陸				4,800	5,350	5,300	7,749
関西	2,893	2,828	2,805	2,711	2,861	2,807	38,700
広島・関西	1,568	1,000	2,873	2,380	1,270	1,831	9,740
その他							
最高額	20,000	20,000	14,040	38,700	26,218	-	38,700

※小数点以下四捨五入

方面別体験活動費用

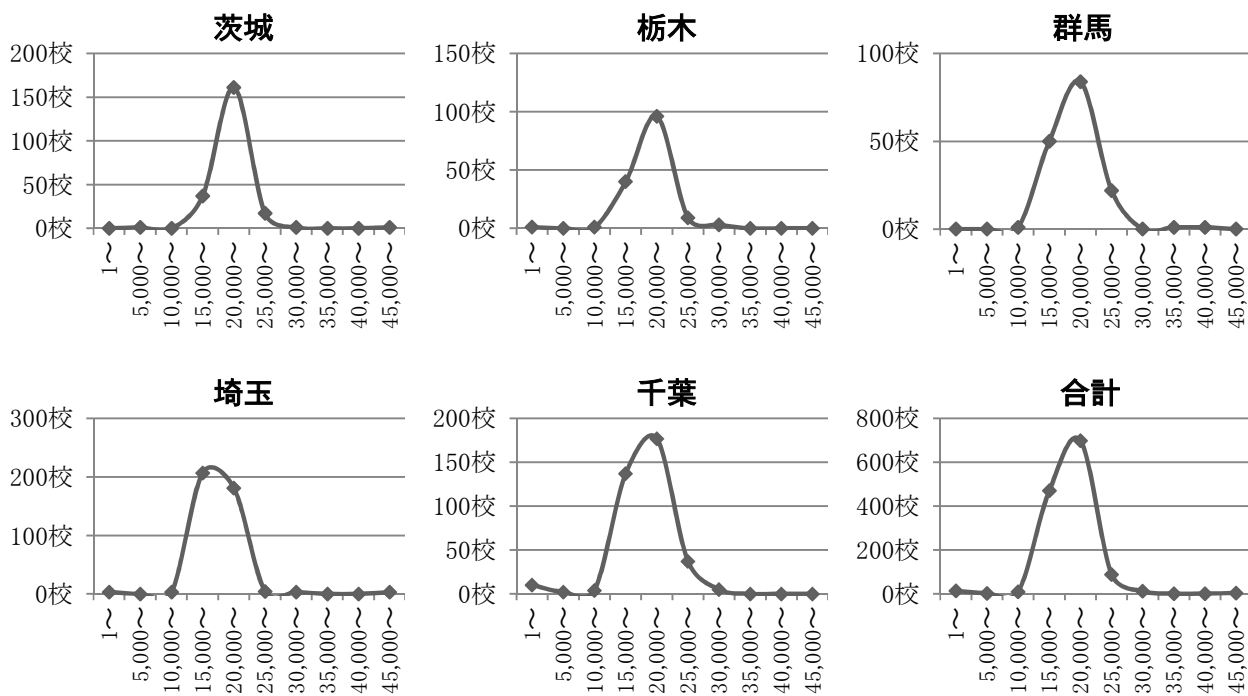
・体験活動費用は学校のねらいや目的、その内容、方法等が実に多様であるため、各学校によりかなり異なる。

・関西地区の体験活動における平均費用は2,807円と昨年2,676円)比べると若干あがった。ここ数年減少傾向にあったが、今年若干増額となった。

(13) 県別宿泊費用(生徒一人当たり平均額) 校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
1~		1		3	10	14
5,000~	1				2	3
10,000~		1	1	3	4	9
15,000~	37	40	50	207	137	471
20,000~	161	96	84	181	177	699
25,000~	17	9	22	4	37	89
30,000~	1	3		3	5	12
35,000~			1			1
40,000~			1			1
45,000~	1			3		4
未回答		2	1	7	1	11
合計	218	152	160	411	373	1,314

※本年度実施なし、海外の6校除く



(14) 方面別宿泊費用(生徒一人当たり平均額)

校

	東北	会津日光	関東	信越	北陸	関西	広島 関西	その他	未回答	合計
1～				3		11				14
5,000～				2		1				3
10,000～	1	1				7				9
15,000～	8	20		34	5	391	11			469
20,000～	4	1		5	6	663	20			699
25,000～						89				89
30,000～				1		10	1			12
35,000～						1				1
40,000～						1				1
45,000～						4				4
未回答			1	1		11				13
合計	13	22	1	46	11	1,189	32	0	0	1,314

※本年度実施なし、海外の6校除く

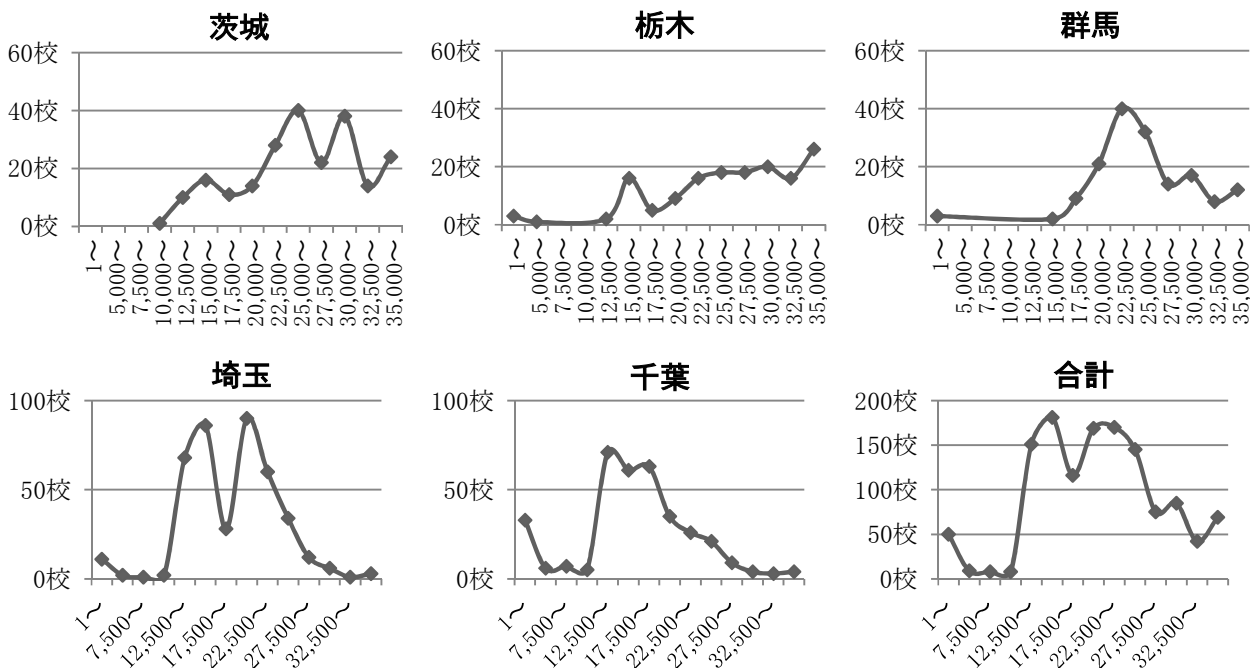
(15) 県別交通費(生徒一人当たり平均額)

校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
C 1～		3	3	11	33	50
D 5,000～		1		2	6	9
E 7,500～				1	7	8
F 10,000～	1			2	5	8
G 12,500～	10	2		68	71	151
H 15,000～	16	16	2	86	61	181
I 17,500～	11	5	9	28	63	116
J 20,000～	14	9	21	90	35	169
K 22,500～	28	16	40	60	26	170
L 25,000～	40	18	32	34	21	145
M 27,500～	22	18	14	12	9	75
M 30,000～	38	20	17	6	4	85
O 32,500～	14	16	8	1	3	42
P 35,000～	24	26	12	3	4	69
未回答		2	2	7	25	36
合計	218	152	160	411	373	1,314

※一部貸切バス代含む

※本年度実施なし、海外の6校除く



(16) 方面別交通費(生徒一人当たり平均額)

校

	東北	会津日光	関東	信越	北陸	関西	広島 関西	その他	未回答	合計
1～	1	12		15		21	1			50
5,000～	1	2		3		3				9
7,500～				7		1				8
10,000～				4		4				8
12,500～	2	1		1	9	138				151
15,000～	3				1	176	1			181
17,500～	5					111				116
20,000～					1	166	2			169
22,500～						169	1			170
25,000～						143	2			145
27,500～						71	4			75
30,000～						82	3			85
32,500～						40	2			42
35,000～	1					52	16			69
未回答		7	1	16		12				36
合計	13	22	1	46	11	1,189	32	0	0	1,314

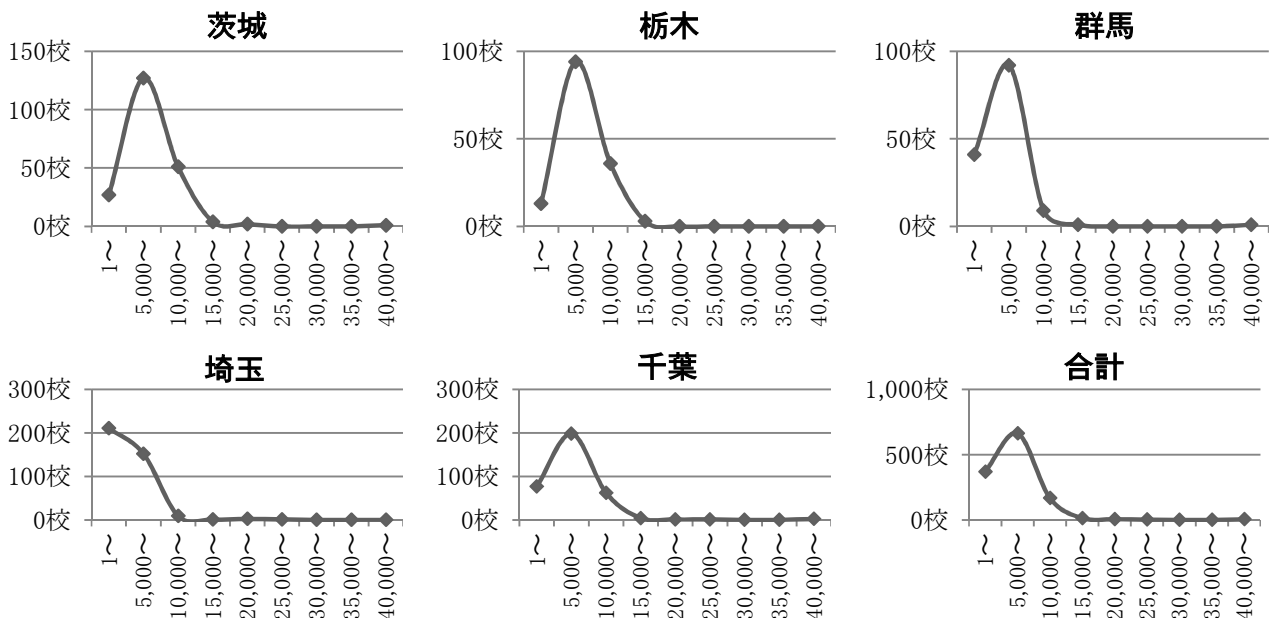
※本年度実施なし、海外の6校除く

(17) 県別貸切バス代(生徒一人当たり平均額)

校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
1～	27	13	41	211	77	369
5,000～	127	94	92	152	198	663
10,000～	51	36	9	9	62	167
15,000～	4	3	1	1	4	13
20,000～	2			2	1	5
25,000～				1	1	2
30,000～						0
35,000～						0
40,000～	1		1		2	4
未回答	6	6	16	35	28	91
合計	218	152	160	411	373	1,314

※本年度実施なし、海外の6校除く



県別バス代

・一昨年までのバス代の上昇は一段落した感がある。クラス毎のバスの配車を見直し、一台のバスにできるだけ乗せるようにして台数を減らすなど、学校の努力も窺える。経費としては大きな変化はない。

(18) 方面別貸切バス代(生徒一人当たり平均額)

校

	東北	会津日光	関東	信越	北陸	関西	広島 関西	その他	未回答	合計
1～		1		1	1	355	11			369
5,000～	11	6	1	17	9	602	17			663
10,000～	2	14		23	1	126	1			167
15,000～		1		2		10				13
20,000～						5				5
25,000～						2				2
30,000～						1				1
35,000～						3				3
40,000～										0
未回答				3		85	3			91
合計	13	22	1	46	11	1,189	32	0	0	1,314

※本年度実施なし、海外の6校除く

(19) 県別内訳平均額

円

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	平均
宿泊費	21,984	21,366	21,742	20,787	20,570	21,109
交通費	26,815	27,451	25,810	19,400	16,836	21,681
貸切バス代	8,480	7,853	6,776	4,839	7,542	6,820
体験費	2,820	2,789	2,807	2,500	3,393	2,884
保険料	681	585	460	600	412	542

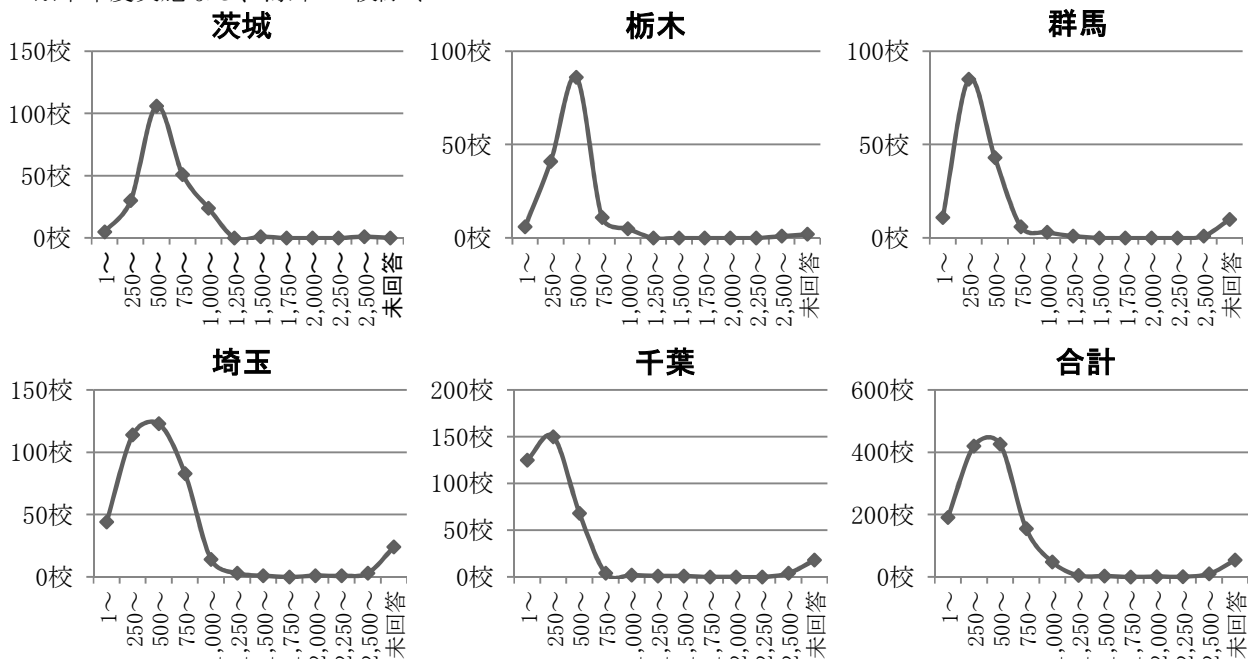
※本年度実施なし、海外の6校除く

(20) 県別保険料(生徒一人当たり平均額)

校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
1～	5	6	11	44	125	191
250～	30	41	85	114	150	420
500～	106	86	43	123	68	426
750～	51	11	6	83	4	155
1,000～	24	5	3	14	2	48
1,250～			1	3	1	5
1,500～	1			1	1	3
1,750～						0
2,000～				1		1
2,250～				1		1
2,500～	1	1	1	3	4	10
未回答		2	10	24	18	54
合計	218	152	160	411	373	1,314

※本年度実施なし、海外の6校除く



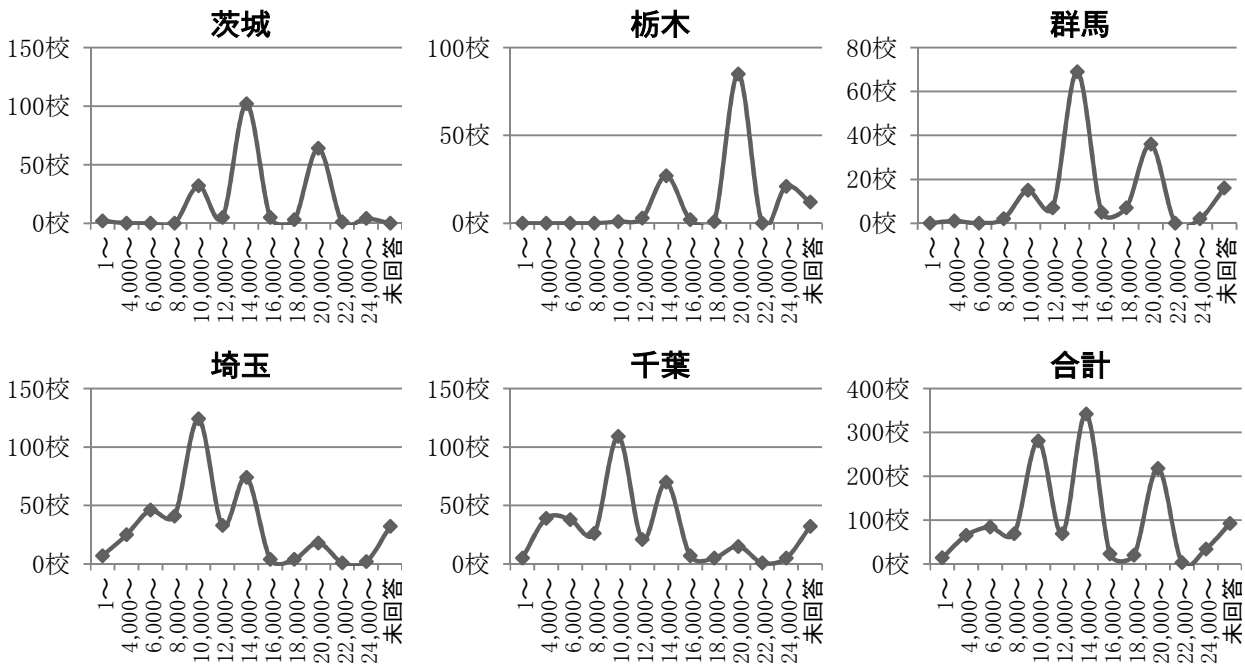
(21) 県別小遣い(生徒一人当たり平均額) 校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
1～	2			7	5	14
4,000～			1	25	39	65
6,000～				46	38	84
8,000～			2	41	26	69
10,000～	32	1	15	124	109	281
12,000～	5	3	7	33	21	69
14,000～	102	27	69	74	70	342
16,000～	5	2	5	4	7	23
18,000～	3	1	7	4	5	20
20,000～	64	85	36	18	15	218
22,000～	1			1	1	3
24,000～	4	21	2	2	5	34
未回答		12	16	32	32	92
合計	218	152	160	411	373	1,314

※本年度実施なし、海外の6校除く

(22) 県別小遣い平均(生徒一人当たり) 円

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	平均
元年度	15,800	19,368	15,722	10,795	10,808	13,223
30年度	15,901	18,825	15,207	11,200	10,756	13,228
29年度	16,037	19,288	16,377	11,018	10,654	13,409

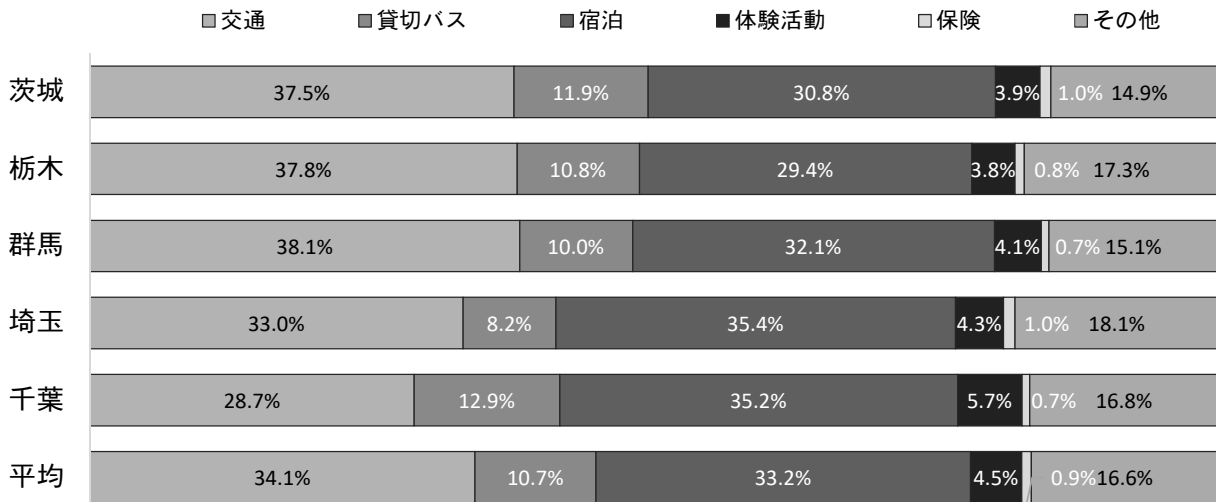


(23) 小遣いに含まれるもの 校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
食事代	212	130	123	322	271	1058	80.5%
土産代	216	134	127	345	323	1145	87.1%
見学料	182	121	107	261	232	903	68.7%
体験費	88	46	42	61	88	325	24.7%
交通費	37	38	78	136	149	438	33.3%
その他	21	15	11	37	25	109	8.3%

※本年度実施なし、海外の6校除く

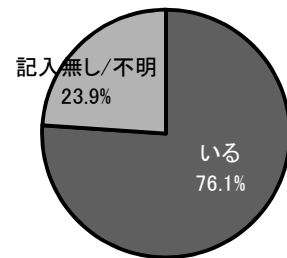
県別費用内訳



(24) 不参加生徒の有無

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
いる	174	112	117	289	310	1,002	76.1%
記入無し/不明	44	40	45	122	64	315	23.9%

※記入無し/不明 には2019（令和元）年7月以降実施の学校も含む
 ※本年度実施なし3校除く



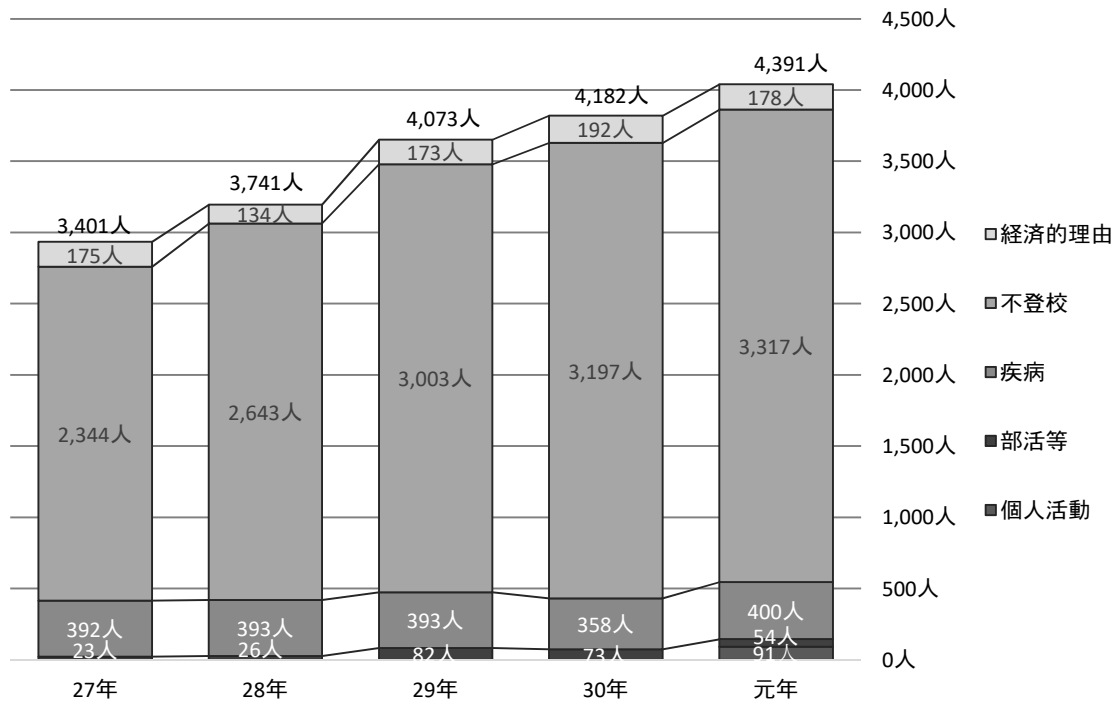
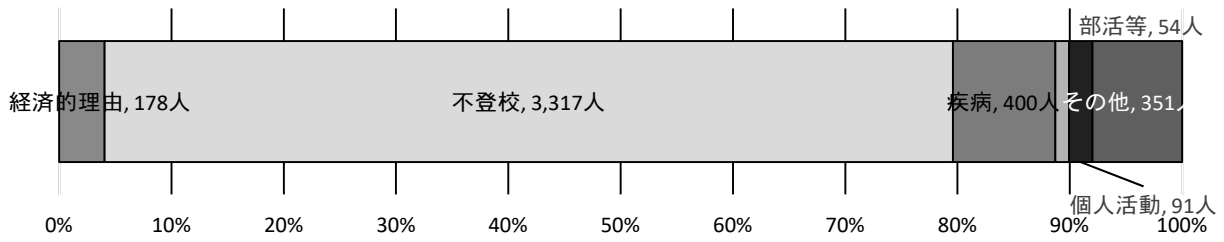
(25) 理由別不参加の延校数と生徒数

		茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
合計	学校数	174	112	117	289	310	1,002
	生徒数	610	507	432	1,533	1,409	4,491
経済的理由	学校数	23	16	17	25	28	109
	生徒数	31	22	27	63	35	178
不登校	学校数	157	98	106	265	276	902
	生徒数	460	335	334	1,128	1,060	3,317
疾病	学校数	47	25	22	93	93	280
	生徒数	57	31	24	142	146	400
部活動等	学校数	5	4	2	12	4	27
	生徒数	9	8	2	27	8	54
個人活動	学校数	13	9	3	24	17	66
	生徒数	14	11	7	40	19	91
その他	学校数	28	31	18	73	64	214
	生徒数	39	64	31	119	98	351

※内訳不明の学校があるため、合計数は一致しない

理由別不参加生徒数

- ・不参加生徒のいる学校は、昨年はじめて1,000校を超えたが、今年も1,002校と超えている。
- ・不参加生徒の総数も4,491人と、昨年度と比べ、320人増加している。
- ・経済的理由による不参加生徒数は178名で、昨年度より14名減っている。一方、不登校生徒は120名増加している。不登校やその他に分類されている生徒の中にも経済的理由に起因して不登校になっている生徒や、それ以外の理由等でその他に分類されている生徒がいることを考慮すると、178名よりも多いと思われる。



2 実施方面の検討・変更について

(1)-1 方面変更の予定について

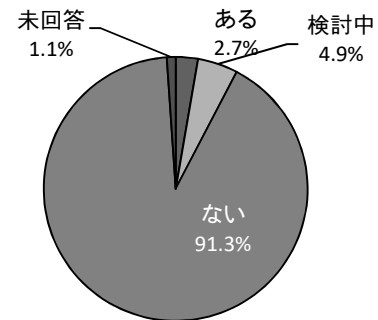
	校						合計	割合
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉			
ある		4	1	2	29	36	2.7%	
検討中	9	3	8	12	33	65	4.9%	
ない	202	142	154	398	309	1,205	91.3%	
未回答	7	4			3	14	1.1%	

1,320
101

(1)-2 方面変更予定の時期について

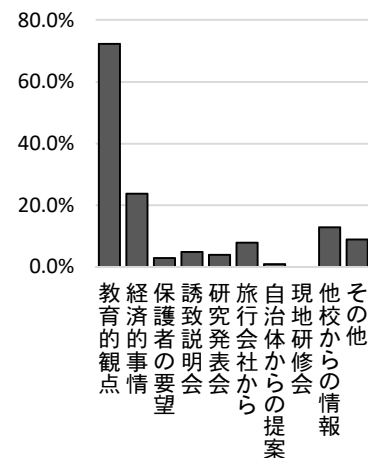
	合計	校
2020 (R2)年	26	
2021 (R3)年	11	
2022 (R4)年	1	

30年度	合計
ある	33
検討中	73
ない	1,209



(2)-1 方面変更のきっかけについて(複数回答)

	校						合計	割合
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉			
教育的観点	4	7	5	10	47	73	72.3%	
経済的事情	1		4	3	16	24	23.8%	
保護者の要望	1				2	3	3.0%	
誘致説明会		1	1	1	2	5	5.0%	
研究発表会		2	1		1	4	4.0%	
旅行会社から	1		1	1	5	8	7.9%	
自治体からの提案					1	1	1.0%	
現地研修会						0	0.0%	
他校からの情報				3	10	13	12.9%	
その他	1	1		3	4	9	8.9%	



その他

交通事情
学校の統廃合等

健康・保健等
インバウンド客の増加に伴う混雑等

(2)-3 変更予定の方面について(複数回答)

変更希望方面	合計	今年度実施方面						
		東北	会津日光	関東	信州	北陸	関西	広島 関西
北海道	3						3	
東北	16	3	1		2		9	1
会津・日光	5	1	1		2			1
関東、東海	7	1			3		3	
信州								
北陸	18	1					17	
関西	29	2			4	2	11	10
広島・関西	6						6	
広島	1						1	
海外/その他	8		1			1		6

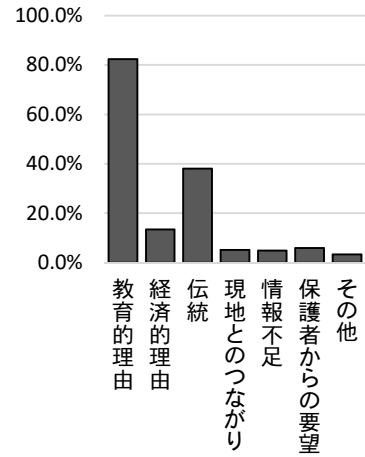
方面変更の予定並びにきっかけについて

・方面変更の予定については、101校の学校が「ある」又は「検討中」と答えている。昨年は116校が回答していたが、その内の数校は、確実に方面変更をしている。少しずつではあるが方面について検討する学校も増えている。

・方面変更のきっかけについては、「教育的観点」が一番多く、次いで、「経済的事情」、「他校からの情報」が続いている。「教育的な観点」を重視しながら「経済的事情」にも配慮していることが推察される。また、学校としては「他校からの情報」に信頼を寄せていることが良くわかる。

(3)-1 方面変更しない理由について(複数回答)

	校					合計	割合
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉		
教育的理由	158	136	121	337	241	993	82.4%
経済的理由	39	28	11	36	48	162	13.4%
伝統	72	41	51	182	113	459	38.1%
現地とのつながり	6	4	1	23	28	62	5.1%
情報不足	7	7	3	33	9	59	4.9%
保護者からの要望	14	4	13	20	21	72	6.0%
その他	6	1	6	8	19	40	3.3%



その他

変更したばかりのため
 3年に一度の検討のため
 生徒・保護者・職員からの要望もなく、安定しているため
 近隣中学校との兼ね合い
 京都・奈良を学ばせたい
 活動時間確保
 立地条件

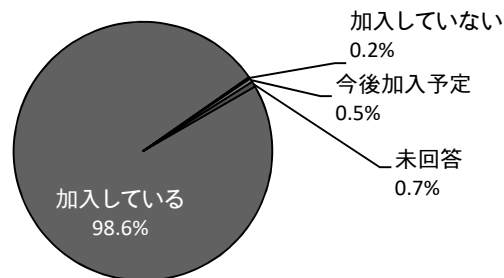
方面変更しない理由について

・変更しない理由については、8割以上の学校が「教育的理由」をあげている。
 京都・奈良の根強い人気を感じる

3 「修学旅行中の安全対策」について

(1) 修学旅行実施にあたり生徒・保護者、教職員を対象とした保険へ加入しているか

	校					合計	割合
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉		
加入している	214	151	161	407	369	1,302	98.6%
加入していない				2	1	3	0.2%
今後加入予定	1		1	3	1	6	0.5%
未回答	3	2	1		3	9	0.7%



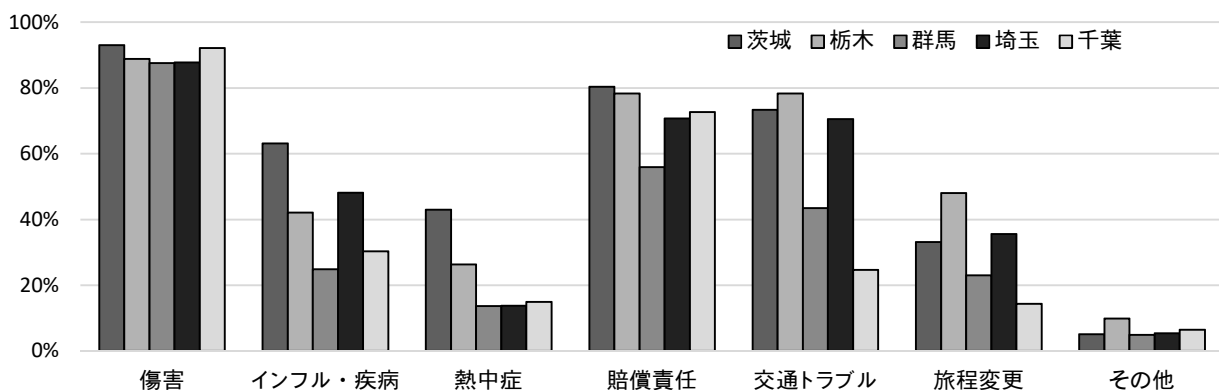
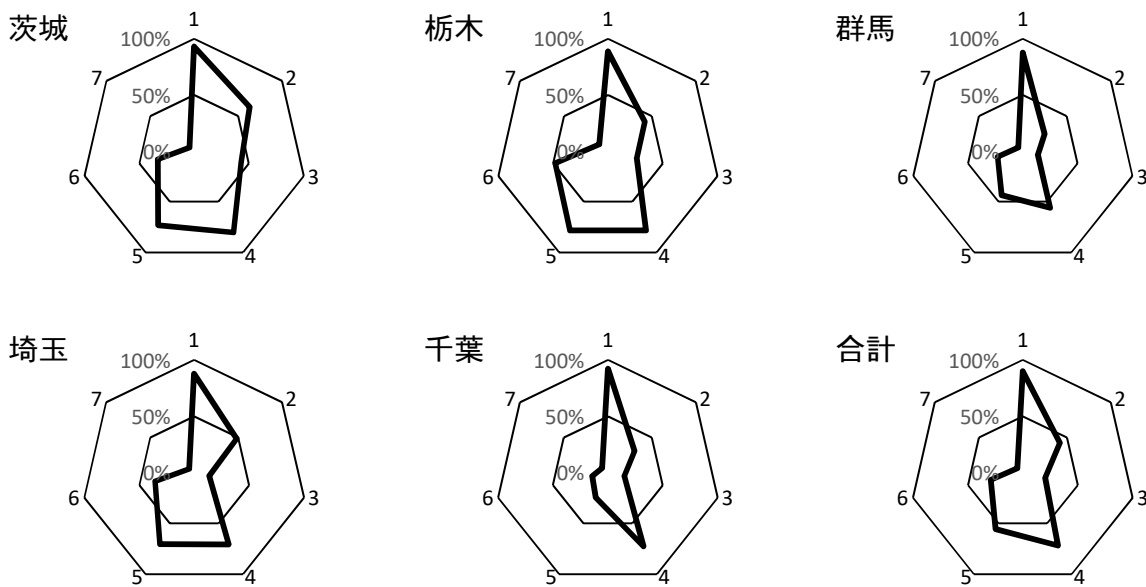
生徒・保護者、教職員を対象とした保険への加入について

・今の時代、保険の加入は当然のことではあるが、今後の加入も含めて100%である。

(2) 加入している保険の内容について(複数回答) 校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
傷害	199	135	141	357	340	1,172	90.0%
インフル・疾病	135	64	40	196	112	547	42.0%
熱中症	92	40	22	56	55	265	20.4%
賠償責任	172	119	90	288	268	937	72.0%
交通トラブル	157	119	70	287	91	724	55.6%
旅程変更	71	73	37	145	53	379	29.1%
その他	11	15	8	22	24	80	6.1%

※加入している学校数1302校対象



加入している保険の内容について

・全体として、関修委の約6割の学校が活用していることが分かる。いずれの県も「通信機能」と「位置情報確認機能」を中心に使っているが、「地図表示機能」については、県によって差がある。県による活用率の違いについては、班行動がタクシー利用であったり、シルバーガイド等の活用など、それらが持っている機能を利用しているため、学校としては活用してないと回答しているケースもある。一方で、気候や環境等の変化による災害や事故、怪我、疾病等はこれまでの経験値を遙かに超えあ事象も珍しくなっている。何時、何処でも、起こりえる可能性を考慮すると、目的地の状況や時期なども含めて、保険

(3) 実際に補償対象となったことがあるか

校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
ある	19	11	9	54	29	122	9.2%
ない	194	139	150	354	341	1,178	89.2%
未回答	5	3	4	4	4	20	1.5%
	218	153	163	412	374	1,320	

補償対象について

・万が一の時に、補償されるか、されないかということは、その出来事に直面している時に、余計な心配をせずに、判断・対応が出来るかと言うことにまで関わってくる場合がある、と体験者の先生方から話を聞くと感じることである。

具体的な補償の事例については最後に掲載しておく。

(4) 補償対象にならなかったが、補償対象にしてほしい事例があったか

校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
あった	14	5	6	17	16	58	4.9%

補償対象にならなかった事柄について

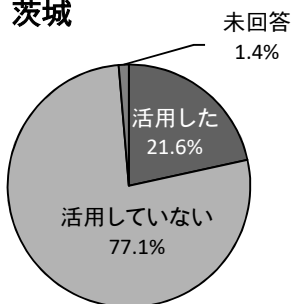
・正に、補償されないということは、その出来事に直面している時に、そして、その後において、学校にとっては経済的な面でも、それ以外の点でも大きな課題、負担になることである。保険会社や旅行業者が提供してくれる保険だけではなく、本当に学校が求めている保険内容・プラン等を考え、整理していく上でも貴重な事例である。

具体的な希望事例については最後に掲載しておく。

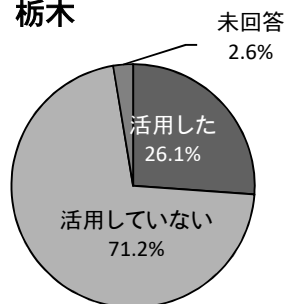
(5) 班行動等の際の情報端末(含携帯電話)の活用について

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
活用した	47	40	145	277	276	785	59.5%
活用していない	168	109	17	133	94	521	39.5%
未回答	3	4	1	2	4	14	1.1%
	218	153	163	412	374	1,320	

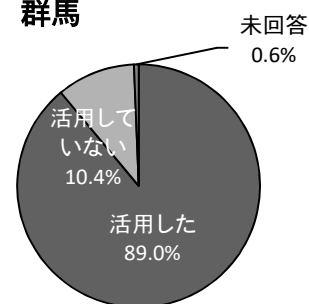
茨城



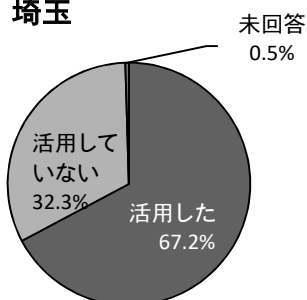
栃木



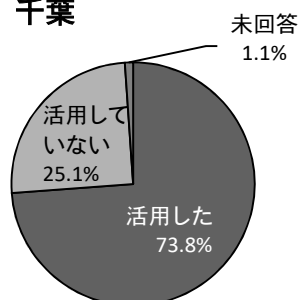
群馬



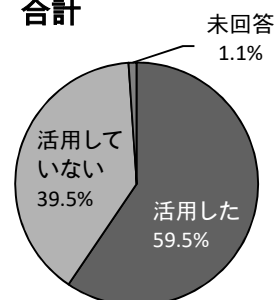
埼玉



千葉



合計



情報端末(含携帯電話)の活用について

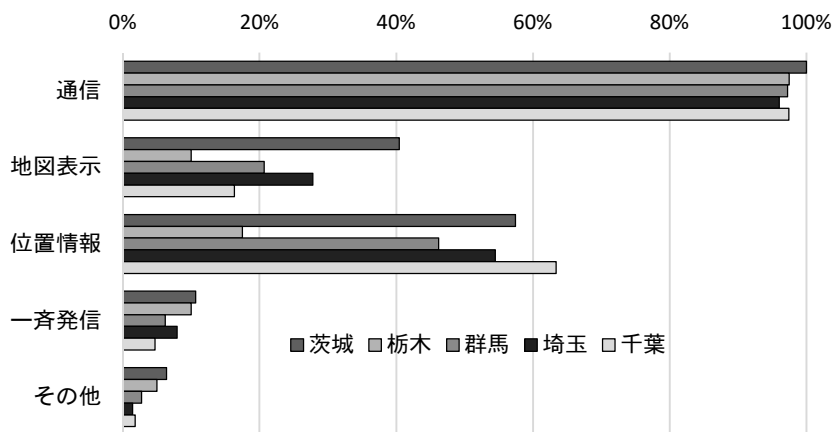
・全体として、関修委の約6割の学校が活用していることが分かる。しかし、県による活用率はかなり違っている。

(6) 活用した機能について(複数回答)

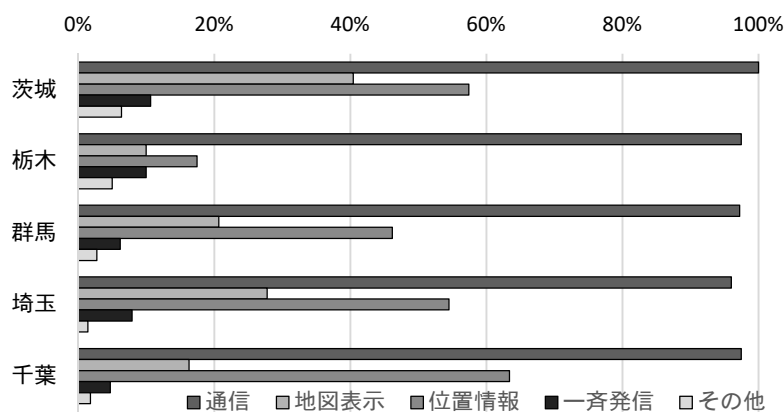
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
通信機能	47	39	141	266	269	762	97.1%
地図表示機能	19	4	30	77	45	175	22.3%
位置情報確認	27	7	67	151	175	427	54.4%
一斉発信機能	5	4	9	22	13	53	6.8%
その他	3	2	4	4	5	18	2.3%

785 校

機能別利用度



県別利用機能



活用した機能について

・活用されている機能については、当然のことながら通信機能はほぼ全ての学校で、また、位置情報確認機能は半数の学校で活用されている。

Ⅲ 調査結果から

1 実施方面の検討・変更等について

方面変更の予定については、昨年と大きくは変化していない。しかしながら、北陸方面に各県とも関心を持っていること、2021年度には14校が訪れることなど、少しずつではあるが実施方面について考える学校も出てきており、変化が窺える。学校・教員が、どの程度情報を持っているかによっても大きく左右される可能性がある。

方面変更のきっかけについては、何と言っても「教育的観点」が一番多く、そして、「経済的事情」、「他校からの情報」が続いている。学校が「教育的な観点」を重視しながらも「経済的事情」にも配慮していることが推察される。また、資料ではなく、生の声としての「他校からの情報」を大切にしていることが良くわかる。

変更しない理由については、8割以上の学校が「教育的理由」をあげている。京都・奈良の根強い人気を感じる。

いずれにしても、生徒にとってより良い修学旅行にしていくために、学校が信頼できる情報を、適宜入手できるかは重要な課題である。

2 「修学旅行中の安全対策」について

(1) 修学旅行実施にあたり生徒・保護者、教職員を対象とした保険へ加入しているか

安全安心の修学旅行を実施していく上で、保険の加入は欠かせないものとなっている。近年、これまでの想定を超えた自然災害や事故等が発生していることを考慮すると、学校でどのような災害や事故等を想定し、安全対策を策定することは、修学旅行の大きな前提になると思われる。

(2) 加入している保険の内容について（複数回答）

「傷害」については90%、「賠償責任」については72%、「交通トラブル」については55.6%の学校が保険に加入していることが分かる。また、修学旅行の期間だけでなく、年間を通して加入している項目もあることを考慮すると、多くの学校が何らかの形で保険に加入していることが推測できる。近年、交通手段やテクノロジーの著しい進歩の中で、極めて便利且つ快適な社会ではあるが、一方で、気候や環境等の変化による災害や事故、怪我、疾病等はこれまでの経験値を遙かに超える事象も珍しくなくなっている。何時、何処でも、起こりえる可能性を考慮すると、目的地の状況や時期なども含めて、保険の選定は修学旅行における大切な判断の一つになる

(3) 実際に補償対象となった事柄について

保険を利用することのない安全安心で無事故の修学旅行を実施することは、全ての中学校の願いである。しかし、万が一の時に、保険で補償されるか、されないかということは、その出来事に直面している時に、余計な心配をせずに、判断・対応が出来るかと言うことにまで関わってくる。その意味でも適切な判断・対応を支える大切な要素である。

(4) 補償対象にならなかった中で対象にして欲しかった事例について

保険の補償対象については、加入の際に十分吟味検討しておく必要がある。保険料金との関係で補償の対象が決まることもあるが、未開発の分野もある。保険会社や旅行会社が提供してくれる保険だけではなく、本当に学校が求めている保険内容・料金プラン等を考え、整理していく上でも貴重な事例である。

(5) 班行動等の際の情報端末の活用（機能）について

全体として、関修委の約6割の学校が活用していることが分かる。いずれの県も「通信機能」と「位置情報確認機能」を中心に使っているが、「地図表示機能」については、県によって差がある。県による活用率の違いについては、班行動がタクシー利用であったり、シルバーガイド等の活用など、それらが持っている機能を利用しているため、学校としては活用していないと回答しているケースもある。「一斉発信機能」について活用率が低いのは、他の機能に比べて、単にそうした機会が少ないからであろう。

IV まとめと今後の課題

<まとめ>

本年度も、関東地区公立中学校修学旅行委員会では、「学びの集大成を図る修学旅行」を研究発表会主題として、「感性をはぐくむ修学旅行」を全体目標に掲げ、調査研究を実施してきた。今年度は、特に、

- ①修学旅行中の保険加入状況について
- ②加入している保険の内容について
- ③実際に補償対象となった事柄について
- ④補償対象にならなかった中で対象にして欲しかった事柄について
- ⑤班行動等の際の情報端末の活用（機能）について

上記の5つを柱に調査研究を進めてきた。

言うまでもなく、現行学習指導要領における修学旅行のねらいは、豊かな自然や文化に触れる体験を通して、生涯の楽しい思い出を作ることが出来ることである。学校における学習活動を充実・発展させること、そして、非日常の旅と言う体験を通して、人間としての生き方についての自覚を深めることであることは周知の通りである。

そのために、「学びの集大成として」の修学旅行を、感性を育てる重要な教育活動の場として捉えていきたい。

今回、野木町立野木第二中学校の藤田晴彦校長先生と岩本勝典先生の発表は、「自ら動き『夢をつかむ』修学旅行の創造 ～生徒の主体性を伸ばし自助共助やキャリア教育と関連させた修学旅行の在り方～」と題し、これまで野木第二中学校が積み上げてきた活動を基本に、新学習指導要領との関連を図りながらの実践である。修学旅行をめぐる新しい課題や安心安全を確保すること、校内の情報環境や人材を活用することを研究の中心とし、今年度の重点（ミッション）を副主題として取り入れながら実践研究を進めてきた。

また、日光市立湯西川中学校の上祢政夫校長先生と杉山怜美奈先生、養護教諭の笹沼愛先生の発表は、「極小規模校が連合で行う修学旅行 ～関わり合う場を作り、社会性を育む～」と題し、小規模校の生徒の課題を正面から見据え、それを克服できる資質と能力を育てようとする取組である。具体的には、異なる環境に入ると思ったような行動がとれない生徒や、大きな集団の中でのふるまいに躊躇する生徒、友人関係に悩む生徒が、新しい環境、未知なる状況でも生活できる「社会性」を育成することを学校の目標とする実践研究である。

これらの2つの素晴らしい実践例と調査研究されたアンケートは、今後の各学校の「修学旅行」の方向性を考える参考にしていただき、一層充実した修学旅行が展開されるようになればと切に願うところである。

<課題>

(1) 修学旅行における「安全性の確保」「教育性の充実」「経済性の適正化」は不可欠な要素である。特に、「安全性の確保」は絶対条件と言っても過言ではない。

近年、これまでの経験や想定を超えた自然災害や事故等が発生し、修学旅行の実施においても少なからず影響を落としている。学校での事前準備や体制づくり、万が一の時の判断基準作り等は、今後、益々重要となってくるが、学校だけでなく教育委員会や関係機関との情報連携や行動連携も不可欠になってくると思われる。

(2) 関修委の県別旅行費用の平均が6万円を超えて5年目になる。経費の高騰傾向は依然として続いているが、国庫補助金額も今年から6万円を超えたのは有り難いことである。このような状況の中で、質の高い修学旅行をどのように実現していくか、学校としては頭の痛い問題である。特に、少子化等で生徒数が減っている小規模校や、遠隔地の学校などは、その影響は更に深刻である。教育旅行としての社会的な理解と支援を得られるような公的配慮・優遇措置等について求めていくことも必要ではないか。

(3) 関東地区の中学校の訪問地の約9割が京都・奈良となっているが、近年、外国からの観光旅行者が急増し、見学地や公共交通機関、道路等の混雑も深刻になってきている。関東地区では、これまでの経緯もあり、方面変更には慎重な学校も多いが、一方で他の選択肢も修学旅行の目的を達成する上で、魅力的なところは決して少なくない。校長先生の客観的な判断材料を増やすという意味でも、情報発信や研修会等を適切・適確に実施していきたい。

(4) 新学習指導要領の全面実施が近づく中、修学旅行における体験学習の意義は、以前と比べて更に大きくなってきている。また、その範囲も従来からある伝統文化に関する体験をはじめ、自然体験、スポーツ体験、職業体験等、その広がりも更に拡大する傾向にある。

(5) 何らかの理由で修学旅行に参加できない生徒の数は、関東地区5県で4,491人、昨年度より320人増えている。学校数では1,002校に上る。その主な理由のトップは、不登校で3,317人、経済的な理由では178人いる。

戦後、学校教育が一貫して目指してきた「人格の完成」と、新学習指導要領でも継承されている基本理念である「生きる力を育む」という目標は、学校という場だけでなく、また、教師という人材だけでなく、広く多くの関わりの中でこそ達成されるものである。そうした意味でも、修学旅行は最も重要な学校行事の一つであり、修学旅行のその行事（当日）だけでなく、事前学習、そして事後学習から始まる「学び」も含めて、「学びの集大成を図る大切なプロセス」として、重要な教育活動である。